

大聖人 独自の大事な教え

布教部長

村松潮隆

絵 藤田由也

此の文には日蓮が大事の法門どもかきて候ぞ。よくよく見ほどか(解)せ給へ、意得させ給ふべし。一閻浮提第一の御本尊を信じさせ給へ。あひかまへてあひかまへて信心つよく候て三仏の守護をかうむらせ給ふべし。

行学の二道をはげみ候べし。行学たへ(絶)なば仏法はあるべからず。我もいたし人も教化候へ。行学は信心よりをこるべく候。力あらば一文一句なりともかたら(談)せ給べし。

南無妙法蓮華經、南無妙法蓮華經。恐恐謹言。

五月十七日

日蓮

花押

【語句の意味】

此の文このふみ手紙。

大事だいじの法門ほうもんどもに（日蓮にっぜんの）大事だいじな教えのの多くを。

かきて候さうろうぞに書かきました。

よくよくに念ねんには念ねんを入れて。手落ちておちなく。

見みほどか（解かい）せ給たまへに見みて理解りかいしなさい。

意い得とくさせ給たまふべしに承知じょうちしておきなさい。

一閻いちえん浮提ぶだい人にん間の住すむ現実げんじつの地上じちやう世界の総そうて。娑しゃ

婆は世界せかい。

御本尊ごほんぞんに拜まがむ対象たいしょう。ここでは「大曼荼羅だいまんだら御本尊ごほんぞん」。

（後記で説明します）

信じさせ給たまへに信じしんじなさい。

あひかまへてに怠おこたりなく。慎重しんちゆうに。

信しん心しん法華経ほっけを信心しんじんすること。ここでは「御題

目を唱なえること」。

つよく候さうろうてに強つよくお持ちもちに成なつて。強つよくして。

三さん 仏ぶつにお釈迦しやくか様やう・多宝如来たぼうにょらい・十方分身じふぱうぶんしん三世さんぜの諸しよ

仏ぶつのこと。また法身ほっしん仏ぶつ・報身ほうしん仏ぶつ・応身おうしん仏ぶつを

も言う。

守しゆ護ご守しゆること。

かうむらせに被おほる。身みに受うける。頂ちやうく。

行学ぎやうがくの二道にどう守しゆ修行じゆうぎやうと学問がくもんの二つの道どう。

はげみ候さうろうべしに励むみなさい。

たへ（絶ぜつ）なばに途切とぎれたら。滅めつびたら。

仏法ぶつぽうはあるべからずに仏ぶつの教えのは無なくなつてしま

う。

我われもにいたしに自分じぶんでも行いい。

人にんをも教化きやうけ候さうろうへに人にんにも教しよえを説せついて仏道ぶつどうへ導どうき

なさい。

をこるべく候さうろう起おこるものです。

力ちからあらばに能力のうりきがあれば。

一文いちもん一句いっく守しゆ一つの文字もんじ・一区切いっくりの言葉ことば。

なりともに守しゆだけでも。

かたら（談だん）せ給たまべしに語ごつて聞きかせなさい。

恐おそ、恐おそ、謹言きんげん守しゆ恐れながら謹きんんで申まをし上げます。手

紙しの終しゆうわりに付つける挨拶あいさつ文ぶん。



五月十七日ぶんねい文永十年（一二七三）五

月十七日。手紙が書かれた日。

日蓮にん執筆者の名。

花か押お書き判が記されていると言う

言葉。署名の下に書く判。

【現代語にしてみる】

この手紙には日蓮の大事な教えを沢山書きました。念には念を入れ良く読んで理解し納得しておいてください。

この娑婆世界で最も尊く勝れた大曼荼羅御本尊を信じなさい。

怠りなく慎重に強い信心をもって、お釈迦様・多宝如来・十方分身三世の諸仏の神秘の守りを頂いてください。

仏道修行と学問の二道を励んでください。修行と学問が途絶えてしまうようなことがあれば、人類を救う仏様の教えは無くなってしまいますから、自分

も励み、人にも教えを奨励してください。仏道修行と学問は、信心から起こるものです。

少しでも能力があるならば、日蓮の教えを一文字・一言でもよいから他人のために説いて語り聞かせてください。

南無妙法蓮華経・南無妙法蓮華経。恐れながら謹んで申し上げます。

文永十年五月十七日 日蓮 書き判。

【御本尊について】

一般的に拝む対象を御本尊と言います。

日蓮宗の寺院本堂には多くの場合、中央に「南無妙法蓮華経」の塔が立ち、その両脇にお釈迦様と多宝如来の二仏、その左右に上行・無辺行・淨行・安立行の四大菩薩を祀る一塔両尊四土と言われる形式に、持国・広目・増長・毘沙門の四大天王を東西南北の四方に置き、内側には不動・愛染明王、文殊・普賢などの菩薩たちを加えて配置、そして最前中央に日蓮大聖人の像を安置する

形態の御本尊が祀られています。この形態は、日蓮大聖人が我々に「これを拝め」と示された文字で書かれた大曼荼羅御本尊を、仏像で表現しようとしたものです。日本人には、文字だけで著わされた掛軸の大曼荼羅御本尊では物足りなさを感じる傾向があり、室町時代に大曼荼羅を仏像で表現する方法が一般的になったのではないかと言われています。また本堂以外のお堂に、大曼荼羅の中の一神、稲荷・鬼子母神・七面大明神・清正公・帝釈天・大黒天などを祀る寺院も多くあります。

寺院によつて御本尊の形態に差異はありますが、このお手紙に書かれている「一閻浮提第一の御本尊」とは「大曼荼羅御本尊」です。

「如来滅後五五百歳始観心本尊鈔」に詳しく説明がされています。この題名は、お釈迦様が亡くなった日から五百年ずつ区切って行った五番目の始め、即ち末法の始めに、心の中にある本尊を観察して著わした書物という意味です。――続く――